

市民の手で市民活動を支える

認定 NPO 法人

# 宝塚 NPO センター ニュース

2012  
December

No.73

発行人：牧里 每治  
編集人：中山 光子

このニュースの編集・発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています。



## わたしと NPO

特定非営利活動法人  
宝塚高次脳機能障害者共生の会  
副理事長 益田 剛史さん

『高次脳機能障害』、聞いたことはありますか。  
初めて聞かれる方も多いのではありませんか。

NPO の名前に『高次脳機能障害』を冠しているのは、この障害を知っていただき、理解してくれる方を増やしていきたいからです。『共生の会』は、皆様の理解ととともに、当事者、家族が地域社会に見守られ、共に生きていきたいという思いを込めています。

そのような思いから、障害を持つ当事者、家族、それを支援してくれる方々が集まり、NPO を設立し、当事者や家族の『居場所』作りのために、『地域活動支援センター Wakaba』を開所しました。

高次脳機能障害は、誰もが突然なりうる中途障害です。

脳の病気や交通事故から高次脳機能障害を受傷します。若い世代（20～50代）の受傷者は、受傷後、職を失うケースも多く、また、法の整備から救われることもなく、適正な行政サービスの提供も受けられない方が多くいます。

脳の病気や外傷から『以前と変わったのではないかな…』とお思いになれる当事者・ご家族の方、当事者・家族の方、Wakaba をのぞいてみませんか。高次脳機能障害を理解しあえる仲間との相談は、話を聞いてもらうだけでも、皆様のご負担を少し開放すると思います。

11月24日の講演会で、早川先生が『点と点を結ぶと線になる。線を対角線に結んでいくと網（ネット）になる。その網の目（ネットワーク）で困った人を救い上げなさい』と教えてくれました。

Wakaba はまだ数本集まった『線』です。

これから、多くの方の協力で網の目（ネットワーク）を作り、当事者、家族、支援者の方に利用してもらえる『居場所』を築き上げていきたいと考えています。



## わたしたちと NPO

NPO 法人  
一元電車あけのべ  
理事長 中尾 一郎さん

私たちが目指していることは、生まれ育ち青春を過ごし、やがて職につきそして人生の伴侶と共に子供を育て、自分たちの親を看取り、そうして現にそこに住んで同じ町の人のお世話をしながら今日に至っている、その町そのものの消滅を何とか防ぎたいという思いなのです。

鉾山街というところは昔から盛況な時には全国から何千人もの人たちが集まり、非常に繁栄した地区となります。たとえその場所がどんな山奥に在ろうとも、です。逆に言うと鉾山が無くなると働くことが出来ない人たちは、一斉にいなくなります。昭和30年代に4,000人以上が暮らしていた明延地区は昭和62年の閉山後、120人の住む集落

になっています。この先どうなるんだろう。という思いは口には出さずとも住民は皆持っていると思います。何とかしないと、という思いと共にです。

しかし、明延には大きな財産が残されていたのです。明延探検坑道と一元電車です。特に一元電車は全国の鉄道ファンに知られ、愛されている存在です。6年前に動かすことに成功した私たちに対して全国の仲間や鉄道愛好家の皆さん、そうして何よりもこの明延で働いていた、育った人たちから大きな大きな支援の輪が広がっています。そのような皆さんの期待に応えるためにも、いつまでも任意団体ではなく、法人格を取得し社会的に責任ある団体とする必要があったのです。NPOの運営自体はまだまだ手探り状態ですが、一日も早く持続可能な、拡大再生産できる団体を作り上げ、この明延地区の再生という目標に向かって地区住民と、全国の仲間たちと共に、新たな活動を展開していきます。

兵庫県地域づくり活動基盤整備事業

## 地域みずからが支え、育てていく活動へ



宝塚から兵庫県北部豊岡へは特急このとり号に乗って約2時間10分。阪神間の中間支援組織の中で当センターは比較的アクセスしやすい場所にあります。当センターは4年程前兵庫県の「ふるさとコミュニティビジネス創出支援事業」を受託し、地元の人々を雇用し、但馬支部を設置するなど但馬地域での活動をスタートしました。

但馬地区では、少子高齢化や人口の減少が急速に進む地域の危機感から必要に迫られて自分達の地域を守る活動の芽が生まれました。しかしながら地域で生まれたこれらの活動の芽を大切に育成

し活動の後押しをする中間支援組織が広大な但馬地域に存在しなかったため、150km離れた宝塚から支援を行ってきたのです。

そして今「地域の活動は地域みずからが支え、育てていく」をテーマに掲げ、但馬地域における中間支援組織の育成事業に取り組んでいます。豊岡での毎月の相談会や講座の開催に加え、10月には豊岡市民プラザ（NPO 法人コミュニケーションアートセンタープラッツ）が中心となり、但馬地域のNPO活動のネットワークを構築するため「但馬NPOネットワーク会議」を開催致しました。地域のNPO・行政機関・社会福祉協議会等が一体となり地域の活動を支え、育てていく環境が少しずつ整いつつあります。（W）



団体活動運営をスムーズに…！

## 課題解決セミナー「気づき編」・「実践編」

3時間ずつ2回に分けて行った体験型セミナー。

1回目10名2回目14名でご参加頂いた皆さんは時間が経つ毎に熱を帯びて話し合われていました。



「気づき編」では自分と組織との関係性や個人と役割上の悩みを分けて考える方法について学

び、「実践編」では課題解決に適したファシリテーション型リーダーシップスタイルや、そのために必要な技術としての「聴き方」を実践。聴くことで徐々に相互理解を深めていく手法を学びました。同時に聴くことを妨げる「リスニング・ブロック」についても学び、受講者からは「自分は相手の言いたいことを聞いているようで、自分の意見を押しつけていたことに気付いた。」という感想も。

受講生にとって現在と今後の活動を考える良い場となったようです。（Y）

シニア・団塊世代のための地域参加講座

## 「2度目の人生の生き方」

元NHKエグゼクティブアナウンサー佐藤誠さんと地域で既に活動されている方々をお招きして総勢24名の方々にご参加頂きました。退職後の準備にとご参加された方、子育てがひと段落されご夫婦で仲良くご参加という方も。講座はDVD等を活用した具体的でわかりやすい講義と後半の座談会で構成。時間がたつごとに同世代を生きて

きたという実感も相まって話に花が咲き、参加者の皆さんは「人との関わりの大切さ」を再認識して頂けた様子でした。中には今度ご飯を食べに行きましょう、と新たなつながりを見つけられた方も。次回は2月11日に開催します！（Y）



宝塚 NPO センターは 12 月 19 日、新制度になって第 1 号の認定 NPO 法人として兵庫県知事より認定をいただきました。この認定は、日頃よりセンターをご支援いただいている皆さまのお力添えなくしては、実現しえなかったことと、理事及びスタッフ一同、心から感謝申し上げます。

これからも認定 NPO 法人を増やし、市民の善意で社会や地域を作っていくことを推進することが私たちの使命と考え、真摯に取り組んでまいります。

よろしくご支援くださいますようお願い致します。

## 川西市若者の自立支援事業

### 「若者のいまを考えるフォーラム」開催



12 月 11 日（火）の午後、川西市のアステホールにおいて若者のいまを考えるフォーラム

「生きづらい時代の若者たち」を開催しました。基調講演は、「社会的ひきこもり」の名付け親である斎藤環さん（精神科医、医療法人社団爽風会佐々木病院 診療部長）。参加者はひきこもり・不登校の保護者を含め当事者・支援者など 222 名。ひきこもりは日本だけの問題でなく韓国、イタリアやスペインにも同様の問題があり、共通しているのは家族主義。経済不況の影響もあり、今やパラサイトのスタイルは全世界的な傾向と言う。

家族の基本的な心構えとしては、本人が安心してひきこまれる環境づくりが大切、目標設定は避ける、まずは家の中でのびのびと過ごす、休養が

必要である。放置放任は安心に繋がらない。コミュニケーションの機会を家族間で持つことが最重要であるとのこと。

第二部のパネルディスカッションで、パネリストの田中俊英さんは親の生き方について、70 歳くらいまでは子どものために頑張っていて欲しい、決して子どもに自立や仕事を迫らないように、自分たちの死後のことを話題にするのはタブー、脅しとなると強く語られた。斎藤環さんはもし、話すのであれば、親亡き後のライフプランを数字に基づいて理論的に話してもらいたいと述べられた。保護者にとっては、わかっているけど難しいというところでしょうが、斎藤先生のお話は説得力がありました。来場者にとっても満足度の高いフォーラムになったものと思います。(K)



## 兵庫県まちかど子育て相談スキルアップ講座企画・実施 更なる子育てスキルアップを目指して

本年 9 月 29 日から 11 月 17 日まで全 10 回に亘る講座を実施しました。昨年に引き続いての実施ですが、本年度はスキルアップ講座ということで、既に子育て現場でご活躍中のみなさんも多く参加されました。

企画にあたっては、昨年の受講生の方たちの意見も取り入れ、現在子育て支援に関わっている方たちが、即活動に生かせるものとして、さらに内容の深いものとなりました。子育て支援の先輩たちの事例紹介なども行いグループで活動するため

のノウハウ・ヒントなども学んでいただきました。今回は公開講座も実施しました。

今後の活動について、グループづくり、起業あるいはボランティア活動など、相談対応は続けてまいります。講座で学んだことを子育て現場で役立ててもらうことを願っています。

(K)



# NPO NEWS&INFORMATION

## 阪神・淡路大震災 1.17 追悼・防災啓発行事

### 宝塚 語りつぐ震災～災害でいのちをなくさないために～

阪神・淡路大震災から18年、東日本大震災から2年が経過しようとしている今、震災を風化させないために、その体験を語りつぐとともに、震災から得た教訓を活かして「災害に強いまちづくり」について考えます。

- ・日時 1月9日(水) 9:30～12:00 ・参加費 無料(定員250名)
- ・場所 ソリオホール(宝塚駅下車すぐ ソリオ1-3F) 託児有・要予約
- ・基調講演 河田 恵昭氏 「にげることは生きること」  
関西大学理事・社会安全学部・社会安全研究センター長・教授  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
- ・パネルディスカッション「語りつぐ震災～災害でいのちをなくさないために～」  
コーディネーター 河田 恵昭さん  
パネリスト 中村 一雄さん(宝塚市自治会連合会 副会長)  
佐藤 誠さん(神戸松蔭女子学院大学教授・元NHK エグゼクティブ・アナウンサー)  
伊藤 貴子さん(宝塚市在住・東日本大震災体験者)



講師 河田恵昭さん

お申込み・お問い合わせは 宝塚NPOセンター 0797-85-7766まで

## ご支援ありがとうございます(順不同、敬称略 期間:2012.12.7まで)

### ●お詫びとお知らせ

前回号新規入会団体正会員様の表記に誤りがありました。お詫びとともに下記の通り訂正させていただきます。

(誤) Crative Debate for GRASS ROOTS ⇒ (正) Creative Debate for GRASS ROOTS

### ●寄付をいただいた皆さん

ろうきんNPO 寄付システムご利用の皆様、田中義岳、名取千里、清水幹子、逆瀬川自治会

## 会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

	個人正会員	団体正会員(NPO法人他)	法人正会員	賛助会員
会費	10,000円	10,000円	30,000円	3,000円

### 振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター

編集後記 ボランティアとして関わって、2回目です。年に4回程度のお手伝いなら優勝!!と気軽に引き受けたのですが、あっという間にこの欄を書いているような気がします。時間が経つのが早く感じるのは、年のせい?それとも多忙?(K)今年も会員の皆様に押し花クリスマスカードを送らせていただきました。お手元に届きましたでしょうか?昨年に引き続き、ボランティアさんと若者就労講座受講生が力を合わせて作成したものです。(N)

## 認定NPO法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845  
宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F  
Tel: 0797-85-7766  
Fax 専用: 0797-85-7799  
利用時間: 9:00～18:00  
休館日: 月・日・祝日・年末年始  
Email: zukanpo@hnpo.net  
URL: http://hnpo.net

生きがいしごとサポートセンター-阪神北  
Tel: 0797-87-4350  
Fax 専用: 0797-87-7799  
Email: cdc@hnpo.net  
URL: http://cdc.hnpo.net  
紙面に関するご意見・ご要望を左記までお寄せください。